

多彩なジャンルの曲で会場を楽しませた西邑楽高吹奏楽部

演奏中に“地震発生”

文化むらで避難訓練
大泉



「第3回文化むら避難訓練コンサート」が大泉町文化むらで開かれた。約410人の来場者らは「コンサート中に地震が発生した」という想定で、大規模災害の発生時にとるべき行動や日頃の備えについて学んだ。

避難訓練の舞台は、西邑楽高吹奏楽部の第29回定期演奏会の会場。ステージでは、モンスターハンターのテーマ曲「英雄の証」などが次々と披露され、手製の小道具を使ったユニークな演出も。客席の来場者は訓練のことは一時忘れたように楽しんでいた。

訓練は「タイタニックメドレー」の演奏時に始まった。茨城県沖で震度5強の地震が発生したという想定で「頭上の落下物に気を付けて、職員の誘導に従い速やかに避難してください」というアナウンスが繰り返し流された。来場者はバッグなどで頭を守りながら慌てずに避難を



講評を行う高柳さん

いて行動すること」と呼び掛けた。

昨年も参加したという中田成翔君(館林五小6年)は「頭に気を付けながら、走らないように逃げた。もし地震が起きたら、今日のことを思い出したい」と話し、母親の幸世さんは「大人になると避難訓練をする機会はありませんでした」と参考になった様子。

山口純美江さん(太田市新田中江田町)は「訓練ことを知らなかったので、初めは演出かと思った。職員の方の誘導で安全に避難できました」と話していた。

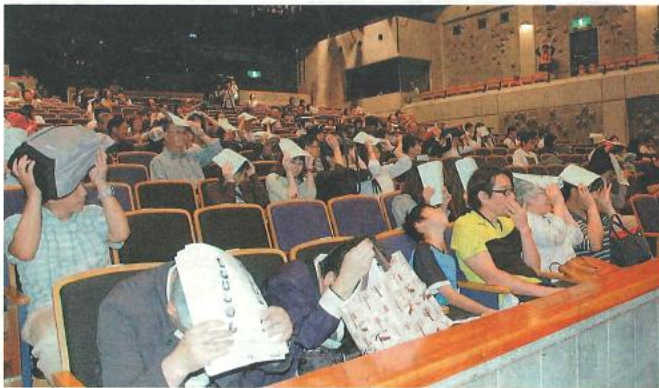
訓練は文化むらが呼び掛け、同校が協力している。

西邑楽高吹奏楽部が協力

開始。

担当の職員たちは、会場にある六つのドアのうち、比較的段差の少ない四つの出口に来場者を誘導。1カ所に人が殺到することを防ぎ、転倒などの危険を回避した。

全員が無事に館外へ避難した後、大泉消防署の高柳忠男さんが講評。高柳さんは「押さない、走らない、しゃべらない、戻らない」の頭文字を取った「お・は・し・も」を紹介し、「災害時に一番大切なことは落ち着



地震発生。バッグやパンフレットで頭を守る来場者